

基調テーマ：「ものづくりイノベーションにより企業価値を高める経営戦略」

●カリキュラム

開催月	テ ー マ	講 師	内 容	開催地	日時・会場
9月	カーボン排出量の見える化から脱炭素経営、業務効率向上を後押し	長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門 研究員 堀 剛 様	当センターでは、県内製造業の発展に寄与するための試験研究機関として、技術相談、依頼試験、研究開発、施設利用など、様々な支援を行っている。その中で、松本市にある環境・情報技術部門では、「長野県ゼロカーボン戦略」に基づき、県内事業者が温室効果ガス(カーボン)排出量を可視化・削減する取組を支援する事業を行っている。その他、当部門ではAI-IoT活用を通じたDXソリューションの共同研究及び提案、独自ブランドづくりのためのデザイン支援など、幅広いニーズに対応している。 本講座では、長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門の事業概要、カーボン排出量の可視化・削減に向けた支援事例、活用方法等について研修する。あわせて、同センターの施設内にある設備・機器の見学を行う。	松本市	令和6年9月5日(木) 午後1時30分～ 長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門
10月	持続可能な地域企業の働き方推進により企業価値を高める	エムケー精工株式会社 代表取締役社長 丸山 将一 様	1948年創立。モビリティ&サービス、ライフ&サポートの2領域で「美・食・住」をテーマに、企画・設計・製造・販売からアフターサービスまで一貫して行う完成品メーカー。既存事業の深掘りとそこに隣接する分野へのチャレンジを進め、お客さまの求める一手先の製品やサービスを提供し、幅広い分野で製品のシェアを伸ばしている。今回、業界トップクラスのシェアを誇る門型洗濯機を製造する同社の信濃町工場を視察する。 持続可能な社会を実現するため、多様性の尊重、健康経営などを推進。将来のリーダー・管理職候補となる女性の採用を積極的に進めるとともに、多様な働き方が可能な職場環境を実現するため、さまざまな制度の整備を行う。その結果、「プラチナくるみん・えるぼし(3段階目)」認定、「健康経営優良法人(ホワイト500)」5年連続認定、2022年には長野県の認証「職場いきいきアドバンスカンパニアードバンスプラス」を取得。誰もが働きやすく、自立的な組織づくりを推進している。 本講座では、シェア獲得に向けた企画力、業界トップクラスの技術力と誰もが働きやすい環境の整備について研修する。	上水内郡 信濃町	令和6年10月2日(水) 午後1時30分～ エムケー精工(株)・ 信濃町工場
	金属と樹脂を組み合わせたインサート成形技術に磨きをかけ、製造工程の自動化に取り組む	株式会社エフプラス 代表取締役社長 小林 浩幸 様	精密プラスチック部品の成形加工・組立を主要事業として1986年に創業。成形後に収縮するという樹脂の特性を踏まえた金型製作及び調整の技術力の高さから創業以来順調に業容を拡大し、現在では金属を樹脂の内部に組み込むインサート成形を強みに、汎用樹脂から耐熱性・機械的強度の高いスーパーエンジニアリング樹脂まで様々な精密プラスチック加工を手掛けており、2022年には次世代型HVの電源コネクタ等少量生産に対応するため鉄骨3階建ての新工場の稼働を開始した。 工場内の省力化にも取り組んでおり、独自の設備による全自動インサート機や全自動検査梱包機を導入し、作業の合理化を推進。また、創業時から築き上げた経験ノウハウとデータベースを活用した樹脂流動解析による樹脂の収縮や変形を予測することで、より精度の高い製品の提供を実現している。 本講座では、新工場の稼働による量産体制とそれを支える独自開発の省力化全自動設備や精密加工を可能にする技術力について研修する。	下伊那郡 松川町	令和6年10月29日(火) 午後1時30分～ (株)エフプラス・本社工場
11月	電気計測器業界のフロントランナーとして世界に挑む	日置電機株式会社 代表取締役社長 岡澤 尊宏 様	世界に向けて計測の先進技術を提供する電気計測器メーカー。1935年の創業以来、製品の開発から製造、販売サービスまでを一貫して自社で行えることを強みとしており、その販売網は全世界に展開。バッテリー計測では高いシェアを誇る。 産業のマザーツールと呼ばれる電気計測器は、研究開発をはじめ生産ラインや保守サービス等広く必要とされており、現在では、現場測定器・電子測定器・記録装置・自動試験装置の開発・製造を行っている。特に世界的な脱炭素の流れを受け、電気自動車のバッテリー向けや太陽光発電などのエネルギー関連の電子測定器の需要が高まっており、同社の保有する金属非接触電圧計測技術や高感度電流計測技術など特長ある技術で産業の発展を支えている。 また持続可能な社会の実現のため、緑化事業などの環境活動を行うとともに、2021年からは、本社工場で使用する電力のすべてを水力発電によるCO2フリー電力に切り替え、本社工場の電力は実質的に再生可能エネルギー100%、電力使用によるCO2排出量ゼロを達成した。 本講座では、時代のニーズを先取りして電気計測に関する技術革新に挑み続け、グローバルに展開する企業体制、カーボンニュートラルへの取り組みについて研修する。	上田市	令和6年11月27日(水) 午後1時30分～ 日置電機(株)・本社工場
12月	インターコネクトテクノロジー分野において世界をリードする	FICT株式会社 執行役員 生産本部長 滝澤 俊太郎 様	あらゆるニーズに「技術力」で応えるプリント基板メーカー。1967年、富士通のプリント基板事業として多層プリント基板の製造を開始し、2002年には富士通の国内工場を手掛けていた事業を集約して富士通インターコネクトテクノロジーズとして分社・独立。2022年現社名に変更、2023年富士通から長野工場の土地と建物を取得。 事業開始以来、一貫してインターコネクトテクノロジー分野において先端技術の開発を続け、サーバーや通信機器、半導体関連装置など現代生活において欠かせない基板製造を行う。またスーパーコンピュータ「京」や「富岳」の基板製造を担うなど、最先端のテクノロジーで日本の技術発展に大きく貢献している。 高密度プリント基板、高機能パッケージ基板、半導体テスト機器用基板を中心に高性能な基板製品を生み出すだけでなく、独自の技術で配線収容能力を飛躍的に向上させ、高速信号伝送を可能にする画期的なメッキレスビア形成基板技術を開発するなど、高い技術力を背景に現代社会に必要な基板製造を通し、ものづくりにおいて世界をリードしている。 本講座では、すべての産業を下支えする最先端のプリント基板製造を可能とする技術力の源泉について研修する。	長野市	令和6年12月(予定) 午後1時30分～ FICT(株)・本社工場
1月 又は 2月	独自技術と新技術の融合でさらなる付加価値を生み出し、未来に向かって挑戦	野村ユニソン株式会社 代表取締役社長 野村 高城 様	1954年に創業、亜鉛合金ダイカスト、金型設計・製作で事業を開始、現在では精密熱間中空鍛造、医療用機器、液晶や半導体など各種FA関連装置の設計・製造、産業用ロボット等の開発・製造、さらにフランスでは自社ドメヌを構え、洋酒の輸入・卸売を行うなど、多角的に事業を展開している。特に各種FA関連装置の設計・製造では、大型のクリーンルームを保有し、お客様のニーズに基づき、構想、設計、部品製作、組立、現地工事まで一貫して対応できること、多様なメーカーの産業用ロボットを駆使した自動化装置の提案ができること、自社開発したユニットが活かせることなど臨機応変な対応を強みにしている。また、2024年1月には自動化・半導体需要へ対応するため諏訪南工場を増築し、生産能力、生産性を向上させている。2023年11月にはSBT認証を取得、グリーン電気の導入や全社的な省エネ活動等による温室効果ガス排出削減をはじめ、諏訪南増築工場への太陽光発電設備の導入検討などGXを積極的に推進している。 本講座では、設計から組立までの一貫体制によりワンストップで顧客の構想を実現する技術力・組織力と最新の生産現場(新工場)について研修する。	茅野市	令和7年1月又は2月(予定) 野村ユニソン(株)・ 諏訪南工場
	微細ばねのグローバルリーダーとして業界を牽引し続ける	株式会社マイクロ発條 代表取締役社長 小島 拓也 様	1954年創業の世界トップシェアの精密ばねメーカー。創業以来、電子機器、文房具、自動車部品、医療機器、半導体など、様々な分野に合わせた高品質な精密ばねの製造・販売を続けている。同社は、世界最小クラスの極細線ばねの加工を行うなど、卓越した技術力が高く評価されているとともに、業界で最も早い段階で自社開発のNCマシンを導入して製品の精度を高め、生産コストの削減・稼働率向上を実現してきた。それに加えて24時間無人連続加工を可能にするなど、万全な生産体制を確立している。今年6月には、各種ばねの需要拡大に対応するため、生産能力を最大2倍に引き上げることができる本社工場を新築。生産能力の更なる強化と品質向上に向けて、立ち止まることなく挑戦・成長を続けている。 本講座では、世界トップレベルの精密加工を手掛ける高度な技術力について研修する。また、市役所の隣という市街地に新たに竣工した「マイクロ味の秘密基地」と呼んでいる本社工場の最新生産設備等の視察を行う。	諏訪市	令和7年1月又は2月(予定) (株)マイクロ発條・本社工場